

農林水産技術会議事務局の組織が変わりました！

(平成20年8月1日～)

○組織再編のねらい

これまでの事務局組織は、研究資金ごとの研究管理体制であったため、課ごとに担当分野が必ずしも一貫せず明確ではないなど、新たな行政課題への機動的な対応に課題があった。

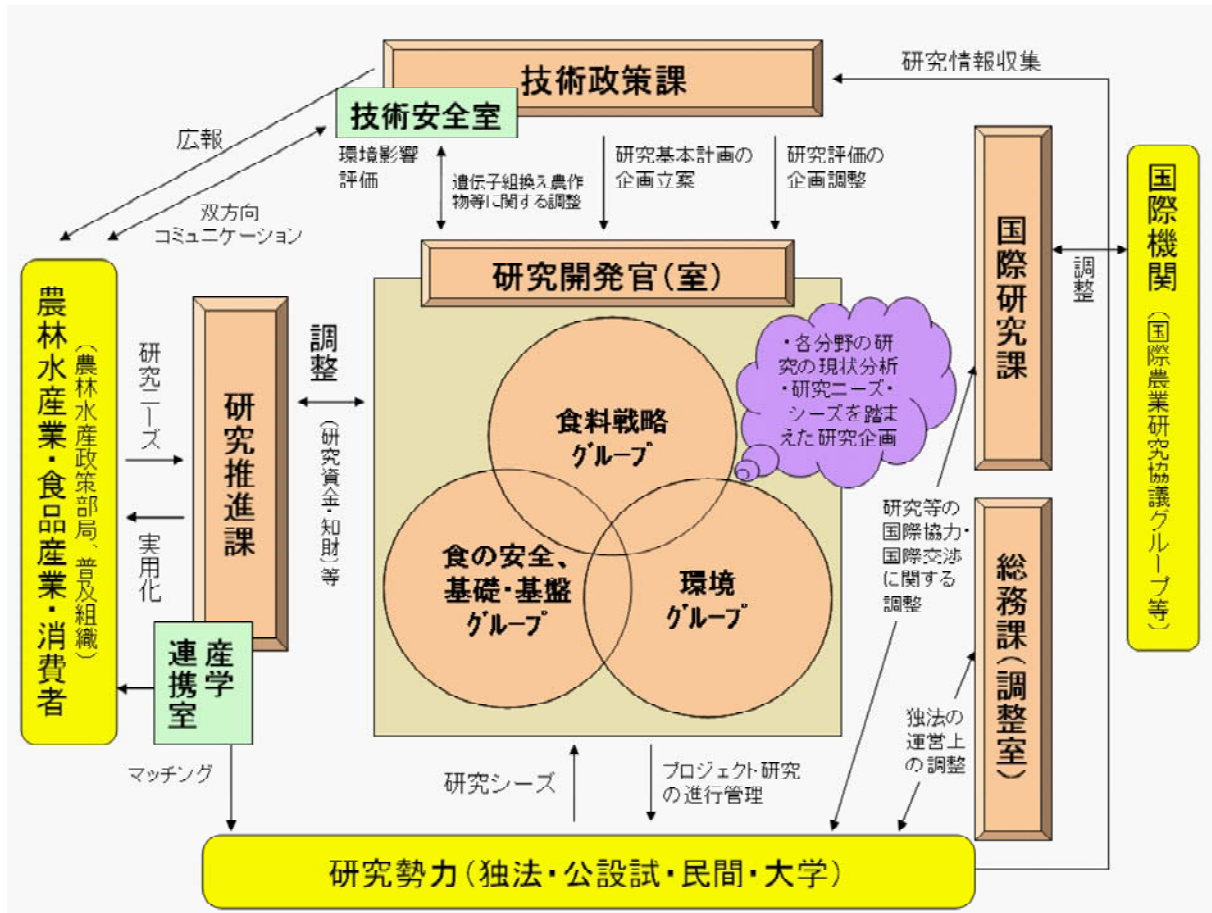
このような体制を改め、食料供給力の強化、食の安全の確保、地球環境問題への対応等、農林水産分野の多様な課題に応える研究開発を産学官のあらゆる勢力を結集して機動的・効果的に実施し、加速化するための体制に再編。

- ① 新たな行政課題に機動的に対応するため、主要分野ごとに、全ての研究勢力における関連する研究シーズの把握、研究テーマの計画立案・進行管理を漏れなく一体的に行う「研究開発官（室）」を新設
- ② 研究資金制度や知財保護活用、産学連携等に一元的に対応し、研究ニーズの把握から成果の実用化までを効果的に行う「研究推進課」及び「産学連携室」を設置
- ③ 安全性を確保した先端研究を推進するため、遺伝子組換え農作物等の環境影響評価や国民との双方向コミュニケーション等を行う「技術安全室」を技術政策課に設置

～新組織の主な業務（下線部が改正組織）～

総務課	： 局の総括
調整室	： 所管独法の運営上の調整
技術政策課	： 研究基本計画の企画立案、政策評価、広報
<u>技術安全室</u>	： <u>遺伝子組換え農作物等の環境影響評価、双方向コミュニケーション</u>
<u>研究推進課</u>	： <u>研究資金制度、研究ニーズの把握から成果の実用化までの効果的推進、知財保護活用</u>
<u>産学連携室</u>	： <u>マッチングや競争的資金の提供等産学連携の推進</u>
国際研究課	： 国際共同研究、国際交流の推進
<u>研究開発官（室）</u>	： <u>研究の企画・進行管理</u>
└ 研究開発官（食料戦略）	： 水田作、畑作、園芸、畜産、食品、環境保全型農業、経営
└ 研究開発官（食の安全、基礎・基盤）	： 動物衛生、食品安全、ゲノム、遺伝資源、先端技術
└ 研究開発官（環境）	： バイオマス、生物多様性、地球温暖化、地域環境、林野、水産

○新組織の下での研究推進体制のイメージ



<参考> 農林水産技術会議事務局の基本理念(平成20年9月8日決定)

私たち農林水産技術会議事務局は、食料供給力の強化、食の安全と消費者の信頼の確保、地球環境問題への対応等、食料や農林水産業を巡る多くの課題を研究開発を通じて解決することを使命とします。

このため、

- ① 常に農林水産業、食品産業等の現場や国民のニーズと将来展望を的確に捉え、
- ② 勢力を結集して研究開発を効率的・効果的に行い、
- ③ その成果を迅速に実用化することに全力で取り組んでまいります。